



繊維巻立て工 仕上げ材工法

繊維巻立て表面仕上げ材 B-10 mm工法

[NEXCO 構造物施工管理要領準拠]

標準施工要領書

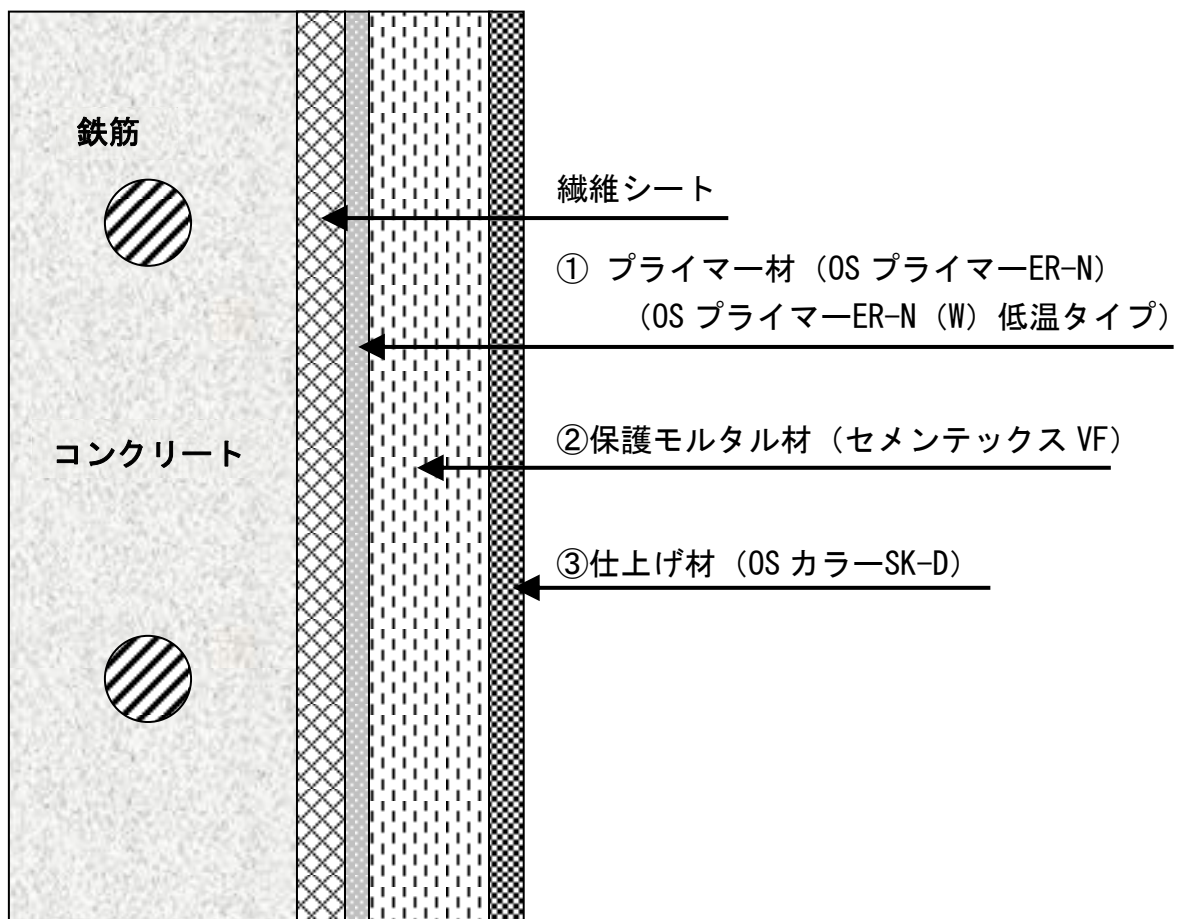
オバナヤ・セメンテックス株式会社

742503-01

## 繊維巻立て表面仕上げ材 B-10 mm工法

繊維巻立て表面仕上げ材 B-10 mm工法は、繊維シート貼付け後に表面に 10 mm 厚さで保護仕上げを行う工法です。

繊維シート貼付け用のエポキシ樹脂等の劣化を防止すると共に、走行車両の衝突や河川内橋脚の保護を考慮する場合に適用します。



施工図

## 施工方法と使用材料

### 工程 1. プライマー材塗布工

主剤はフィラー入り製品のため、使用前には缶内を均一な状態にしてから使用してください。（セット単位での使用時は配合・攪拌時に均一にしてください。）

気温・混練り量によっても変わりますが、可使時間以内に使い切れる量の主剤と硬化剤量を計量し、均一な状態に攪拌してから使用してください。

プライマー材を短毛ローラーで付け送りを行い、炭素繊維のラップ等の段差に注意して、塗り忘れのないように均一に塗布してください。

※短毛ローラーを使用すると材料の付け送り量を少なくすることができ、平滑に伸ばしやすくなります。

可使時間、打設有効時間は表 1 を参照ください。

施工器具：短毛ローラー、刷毛、ゴムベラ、ゴムゴテ等

材料	標準使用量	施工面積	工程間隔
OS プライマーER-N 12 kgセット 主剤 8 kg : 硬化剤 4 kg	0.2 kg/m <sup>2</sup>	60 m <sup>2</sup>	4 時間以内 (25℃)

表 1 可使時間、打設有効時間の目安

項目	気温	OS プライマーER-N	OS プライマーER-N (W)
可使 時間 150 g	5℃	—	80 分
	10℃	300 分	—
	15℃	180 分	25 分
	25℃	80 分	14 分
	35℃	30 分	—
打設 有効 時間 ※1	5℃	—	7 時間
	10℃	10 時間	—
	15℃	6 時間	3 時間
	25℃	4 時間	90 分
	35℃	3 時間	—

本性状表に記載されているデータは試験結果に基づくものであり、性状を保証するものではありません。

※1 混練後ただちに薄膜で練りひろげた状態

※ ER-N は 10℃以上で使用して下さい。また施工時の気温が 15℃を下回ることが予想される場合は、低温タイプの ER-N (W) の使用を推奨します。

## 工程 2. 保護モルタル材塗付工

材料の混練りは、高速電動攪拌機またはモルタルミキサを用いて 3 分間行ってください。プライマー材塗布後、25℃で 4 時間（指触乾燥状態になる前）以内を目安に打設作業を行ってください。

プライマー材塗布後は、若干ゲル状になる程度で、モルタル材を塗布すると最適です。

表 1 打設有効時間を目安にして、指触乾燥状態になる前に打設を完了してください。

プライマー材が硬化した場合は、再度プライマー材を塗布してから打設を行ってください。

施工器具：コテ等

### ビニロン繊維入り材型ポリマーセメントモルタル

材料	標準使用量	施工面積	工程間隔
セメンテックス VF 20 kg袋入り 配合水：3.0～3.5 kg	16 kg/m <sup>2</sup> (施工厚 10 mm)	1.25 m <sup>2</sup>	24 時間以上 (20℃)

※可使時間目安 夏期：30 分，20℃：60 分

## 工程 3. 仕上げ材塗布工

材料は使用前に十分攪拌してから使用してください。

表面保護材塗布後、20℃で 24 時間以上、10℃で 48 時間以上間隔を取ってから、耐久性向上と美装を目的として、仕上げ材をピンホール・塗りムラがなくなるように、2 回塗りにて標準使用量を塗布してください。

施工器具：ローラー、刷毛等

材料	標準使用量	塗布面積	工程間隔
OS カラーSK-D 20 kg缶入り 調整水 0～1 kg	0.4 kg/m <sup>2</sup> (2 回塗り)	50 m <sup>2</sup>	1 時間以上 (20℃)

標準色：N-75（グレー）

## ■使用上の注意事項

### (1) 材料配合上の注意事項

- 材料の練混ぜは仕様を十分に確認してから行ってください。
- 練混ぜに際しては、練りすぎによる泡の巻き込みに注意してください。
- 他の材料は一切混入しないでください。
- プライマー材の施工時の気温について  
OS プライマーER-N・ER-N(W) 低温時用は施工時の気温環境で材料の粘度が大きく異なります。品番選択の目安として施工時の作業箇所での気温が15℃を下回ることが予想される作業環境下では、OS プライマーER-Nは粘性が高くなり攪拌作業及び塗布作業性悪く困難になりますので、低温タイプのER-N(W)を推奨します。またER-Nは気温が10℃未満になると材料の硬化反応が進まなくなりますので、10℃以上で使用して下さい。  
施工時の気温が25℃を超える場合、低温タイプのER-N(W)は可使時間と打設有効時間が短くなりますので通常タイプを使用してください。

### (2) 保管上の注意事項

- 材料は湿気・雨掛り・直射日光を避け、常温(5~40℃)で保管してください。
- 保管期間が長期に渡ったものは使用しないでください。
- 粉体の保管はセメントと同様に取り扱い、一度開封して放置した商品は使用しないでください。
- 一度凍結した材料は絶対に使用しないでください。

### (3) 施工上の注意事項

- 5℃以下での施工は避けてください。やむをえず施工する場合は保温対策を講じてください。
- 湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、施工を避けてください。
- 強風及び降雨・降雪の場合、又はそれらが予想される場合は施工を避けてください。
- 暑中・寒中の施工においては、十分な養生のもと施工を行ってください。
- 施工後、凍結の恐れがある場合は、作業時間帯を熟慮して保温養生を行ってください。
- 施工後、12時間以内に降雨が予想される場合は、施工を避けるか、施工箇所に雨水が掛からないようシートで覆うなどして養生してください。
- 気温の高いときは材料の可使時間が短くなりますので、必要に応じ小分けして練混ぜてください。
- 気温・通風・直射日光・施工効率を考慮して、可使時間内に使用できる量を決めて練混ぜてください。
- 施工しない箇所は、前もってポリエチレンフィルム等で材料が付着しないよう注意してください。
- 取り扱いに当たっては、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の安全保護具を着用してください。
- 施工器具類は使用後、材料が硬化する前に速やかに洗浄してください。
- 皮膚に付着した場合は、速やかに水で洗い流し、必要に応じて専門医の診察を受けてください。

詳しくは製品安全データシート(SDS)をご参照ください。

本資料は、予告なしに変更する場合があります、予めご了承ください。最新の情報については、各担当部署、もしくは下記までお問い合わせください。

東京支店 TEL:03-3663-7641

大阪営業所 TEL:06-6305-0371